

自由討議のアジェンダ

自由討議のタイムスケジュール（目安）

討議順	議題	合計時間		
			事務局説明	自由討議
①	第 4 章について	60分	15分	45分
②	第 3 章について	20分	5分	15分
③	第 2 章について	20分	5分	15分
④	第 1 章について	10分	3分	7分

自由討議のアジェンダ (討議順①)

約60分
(事務局説明15分+自由討議45分)

第4章

Society5.0におけるガバナンスの在り方 – アジャイル・ガバナンスの実現に向けて

4.1 総論：アジャイル・ガバナンスの考え方

4.2 アジャイル・ガバナンスにおける企業の役割

- 4.2.1 ガバナンスを担う企業の役割の重要性
- 4.2.2 ガバナンスの各プロセスにおける企業の役割
- 4.2.3 企業の信頼（トラスト）確保
- 4.2.4 企業を動かすインセンティブ・ストラクチャーの設計

4.3 アジャイル・ガバナンスを促す法規制のデザイン

- 4.3.1 法規制によるガバナンスの課題
- 4.3.2 ゴールベースの法規制
- 4.3.3 標準・ガイドライン等の中間的規範の策定
- 4.3.4 実験的アプローチの導入（規制のサンドボックス）
- 4.3.5 テクノロジーによるコンプライアンスの達成（SupTech/RegTech）
- 4.3.6 イノベーションを促進する責任制度の在り方
- 4.3.7 紛争解決・権利救済制度の整備

4.4 市場におけるアジャイル・ガバナンスの実現

- 4.4.1 アジャイル・ガバナンス実現に向けた市場の重要性
- 4.4.2 公正競争と透明性・選択肢の確保
- 4.4.3 データの保護
- 4.4.4 安全かつ柔軟な取引を実現するインフラの整備

4.5 個人・コミュニティによるアジャイル・ガバナンスへの参加

- 4.5.1 コミュニティによるシステム設計と改善
ー オープンソースソフトウェア
- 4.5.2 社会への判断材料の提供
- 4.5.3 自由で健全な言論空間の確保
- 4.5.4 市民による政治的意思決定への関与
- 4.5.5 市民によるシステム設計への関与

4.6 アジャイル・ガバナンス実現のためのインフラの構築

4.7 グローバルなアジャイル・ガバナンスの実現に向けて

- 4.7.1 政府間の取組
- 4.7.2 標準など民間主導の取組
- 4.7.3 民間企業同士の取組

自由討議のアジェンダ (討議順②)

約20分
(事務局説明 5分 + 自由討議15分)

第3章

Society5.0におけるガバナンスのゴール

3.1 Society5.0におけるゴールの核心

- 3.1.1 技術に伴うゴールの変化
- 3.1.2 ゴールの核心

3.2 基本的人権の現代化

- 3.2.1 プライバシー権・個人情報保護
- 3.2.2 生命・身体の安全と健康
- 3.2.3 移動の自由
- 3.2.4 表現の自由
- 3.2.5 働き方の自由と労働者の権利

3.3 豊かでイノベーティブな社会の実現

- 3.3.1 無形資産の保護とイノベーションの
バランスの確保
- 3.3.2 公正競争
- 3.3.3 水平分業
- 3.3.4 豊かさの再定義

3.4 公共的価値の実質化

- 3.4.1 民主主義
- 3.4.2 法の支配
- 3.4.3 公共サービスへのアクセス
- 3.4.4 刑事司法
- 3.4.5 安全保障

3.5 持続可能な社会の形成

自由討議のアジェンダ (討議順③)

約20分
(事務局説明 5分 + 自由討議15分)

第2章

Society5.0を構成するサイバー・フィジカルシステム (CPS) の特徴と課題

2.1 Society5.0におけるCPSとは何か

2.2 リアルタイムかつ詳細なデータの収集

(Digitalization)

2.2.1 あらゆるヒトやモノのネットワーク化とデータ化

2.2.2 フィジカル空間のデータ化によって生じる課題

2.3 高度かつ自律的なデータ分析 (Analytics)

2.3.1 ビッグデータとAIによる新たな価値創造

2.3.2 AIの技術的特徴

2.3.3 AIがもたらすガバナンス上の課題

2.4 アルゴリズムの判断のフィジカル空間への作用

(Actuation)

2.4.1 アルゴリズムによるフィジカル空間への作用

2.4.2 フィジカル空間への作用がもたらすガバナンス上の課題

2.5 様々な機能をもつシステムの相互接続 (Connected)

2.5.1 複数の主体が提供するシステムの相互接続

2.5.2 システムの相互接続がもたらす課題

2.6 環境に応じた常時変化 (Reconfigurable)

2.6.1 環境の変化に伴うアルゴリズムや機能の常時変化

2.6.2 環境に応じた常時変化がもたらす課題

2.7 地理的制約や業種の壁を超える拡張性 (Augmentation)

2.7.1 Society5.0における拡張性

2.7.2 拡張性がもたらすガバナンス上の課題

2.8 CPSがもたらすガバナンス上の課題のまとめ

自由討議のアジェンダ (討議順④)

約10分
(事務局説明 3分 + 自由討議 7分)

第1章

Society5.0におけるガバナンスの課題

1.1 なぜガバナンスが核心となるのか

- 1.1.1 Society5.0とは何か
- 1.1.2 Society5.0を実現するために
ガバナンスが必要な理由

1.2 本報告書のねらい

- 1.2.1 企業の産業競争力の根本的な強化
- 1.2.2 立法・行政・司法機能の再設計
- 1.2.3 国際的なデータガバナンスの実現

1.3 本報告書の構成

1.4 本報告書におけるガバナンスの定義

- 1.4.1 ガバナンスの対象：
サイバー空間とフィジカル空間を融合するシステム
- 1.4.2 ガバナンスの目的①：
ステークホルダーが受容可能な水準でのリスク管理
- 1.4.3 ガバナンスの目的②：
ステークホルダーにとっての恩恵の最大化
- 1.4.4 ガバナンスの態様：
技術的、組織的及び社会的システムの設計及び運用